

藍の都

地域の方々と共に育む、
当院がお届けする健康だより

いるか通信

Vol.2

2017年5月号
Take Free

A I N O M I Y A K O D O L P H I N N E W S L E T T E R

INDEX

- P.1 SCUをリニューアルしました! 看護部 看護師長 土海 由紀
- P.2 緊急脳血管内手術治療・脳血栓回収術について 理事長・院長 佐々木 庸
- P.3 心臓の血管の病気① ～狭心症～ 循環器内科部長 山平 浩世
- P.4 脳外科で内科の治療? 総合内科 吉居 真由美
- P.5 当院におけるニューロリハビリテーションについて リハビリテーション部 主任 唐渡 弘起
- P.6 はじめまして、地域連携室です 地域連携室 社会福祉士 木口 尚平・西山 典子
笑顔とチームワークを大切に 看護部 副師長 坂口 昌美
- P.7 理事長のごあいさつ 理事長・院長 佐々木 庸



SCUチーム

SCUをリニューアルしました!



看護師長 土海 由紀

みなさん、こんにちは。SCU・急性期病棟看護師長の土海由紀と申します。当院は、2012年にSCU(脳卒中ケアユニット)を開院し、脳卒中急性期患者様の集中的な治療に取り組んでまいりました。

SCUとは、発症直後から脳卒中急性期患者様の適切な治療とリハビリを行う病棟で、当院では医師をはじめ、看護師、薬剤師、理学療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカーの専門チームが、毎朝の回診で病状や治療方針などの情報を共有し、早期リハビリに力を入れています。

この度、病院開設5周年事業の一環として、チーム

の意見を取り入れて、SCU病室のアップグレードリニューアルを行いました。私達なりに配慮したこだわりは、発症直後の患者様の心理状況や身体変化を考え、心電図モニターやTVは壁に取り付け、コードが患者様のリハビリの障害にならないよう安全性を徹底した設計です。また、必要時にプライバシーが守れるようにドイツ製の最新の壁付けの可動式スクリーンを導入し、カラーリングにおいても心を癒すといわれるグリーン色を取り入れました。患者様の目線でスタッフがいままでの経験をもとに工夫したアイデアをご評価いただければ嬉しいです。



アップグレードしたSCU病室

雷(らい)さん 趙(ちょう)さん 包(ほう)さん

2017年3月に
准看護師免許取得



中国NSスタッフ

話は変わりますが、2025年問題をご存知でしょうか?

今から10年後の2025年には、日本では3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上という、かつて私達が経験したことのない高齢社会を迎えるといわれています。

その中で、深刻な問題になっているのが看護師不足で、25万人以上が不足することが予測されています。そこで、当院では看護部チームの国際化に挑戦しています。昨年11月より中国で看護師免許を取得したスタッフを3名雇用し、当院で勉強しながら日本の看護師免許を取得できるようサポートしています。中国は、漢字圏であること、文化が多少なりとも類似していることから、日本の医療にいち早く馴染めるのではないかと、期待しています。

藍の都チームで彼女達をサポートし、一緒に急性期医療に参加させて頂き、そしてその延長線上で2025年問題に貢献していければ素晴らしいことだと考えています。

これからも藍の都急性期看護部として、知識や技術の研鑽は確実に実施して参りますが、それだけではなく「患者様ファースト」で患者様やご家族様の気持ちに寄り添える思いやりあるチームづくりをしていきたいと思えます。

緊急脳血管内手術治療・脳血栓回収術について

★開院からの脳卒中関連手術1,000件の内、約100例を実施しています。

理事長・院長 佐々木 庸

脳血管が詰まってしまう病気を脳梗塞といい、その中でも心臓の不整脈や内頸動脈の血管の細くなったところから血の塊が飛来して脳血管を詰めてしまう病気を脳塞栓という分類になります。

これは脳血管の大事な大動脈を詰めてしまうことから重症として発症することが多くあります。この治療は発症から4時間30分以内の場合はt-PAといわれる国内最高の血栓溶解剤を静脈投与するのが代表的で当院では開院の火入れからかかわっている熟練のナースチームや放射線技師チームが中心となり、当院来院後平均約40分以内に投与を施行しています。それでもその効果は絶対ではなく、諸条件が満たせばその次のステップとして手術(脳血管内手術)治療が存在します。

当院では平成23年の開院火入れ以来24時間365日体制で一日も休まず実施体制を整備し、これまでに100例近い緊急的脳血栓回収術を実施しています。この治療は脳血管内手術専門医が実施することが規定されており、当院では脳卒中センターにかかわる脳血管内手術専門医3名(佐々木庸院長・矢野達也医師・永島宗紀医師)と脳神経外科医師2名(小林啓作医師・鈴木聡医師)の脳外科5名と、総合内科吉居真由美医師、循環器カテーテル内科山平浩世部長の熟練医師7名体制のチームで大阪東部地区の住民の皆様々に24時間365日脳卒中超急性期脳血管内手術を実施しその後のSCU(脳卒中ケアユニット)治療をご提供しています。

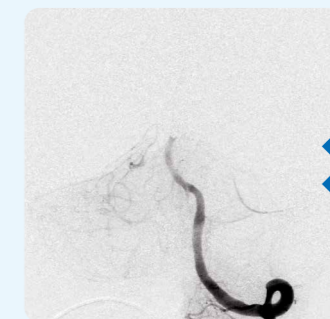


脳卒中センターDrチーム

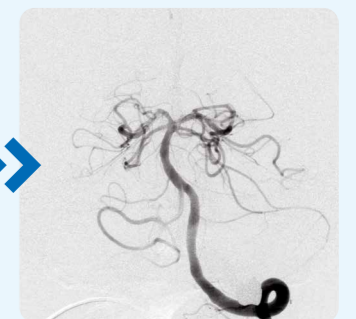
(後列左より) 矢野達也医師 永島宗紀医師 小林啓作医師 鈴木聡医師
(前列左より) 清原佳奈子医師 栗林厚介医師 佐々木庸院長 山平浩世医師 吉居真由美医師



血管内手術実施風景



脳血栓回収術 実施前
(血管造影)



脳血栓回収術 実施後
(血管造影)

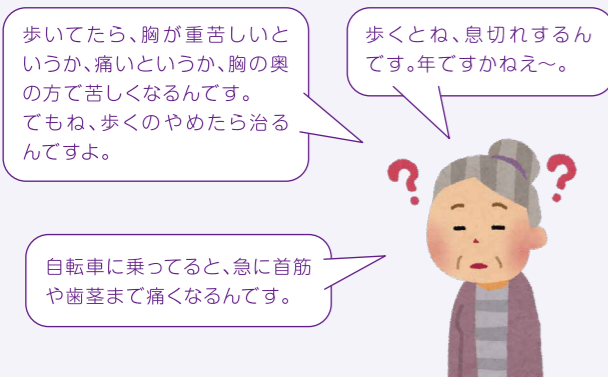
心臓の血管の病気 ① ～狭心症～

循環器内科部長 山平 浩世

皆様のお身体について色々知っていただくために、毎号の「いるか通信」で豆知識をお話したいと思ひます。

第1回目は、「狭心症」についてお話ししたいと思ひます。

どんな症状なのでしょう？



このような症状に心当たりありませんか？

心臓は、酸素を含んだきれいな血液を全身に送り出すポンプの働きをする大切な臓器ですが、心臓自身にもきれいな血液を供給しないと、動きが悪くなります。そのために冠動脈という血管が心臓の周りを取り巻いています。

「狭心症」とはその冠動脈の中が動脈硬化で狭くなったり(狭窄)、つまったり(閉塞)して血液の流れが悪くなると、心臓のある部分の領域が酸素不足になり、その結果、先ほどのような症状が出るのです。

それではそのような症状が出たら、どんな検査をするのでしょうか？

まず「心電図」をとり、「心臓超音波検査(心エコー)」で動きを確認します。でも、動いた時にしか症状は出ないので、これでは不十分です。そのため「負荷心電図」と言って、階段歩行やトレッドミル(ルームランナーの様な器機)を使って負荷をかけ、心電図でその変化を見ます。その変化が認められれば「狭心症」と診断され、冠動脈CT(H28年現在、当院未導入)や最終診断として心臓カテーテル検査を行います。

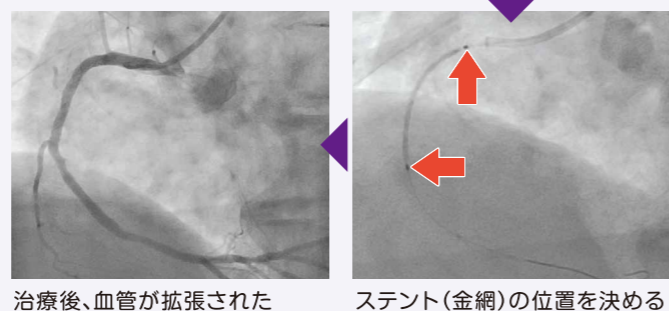
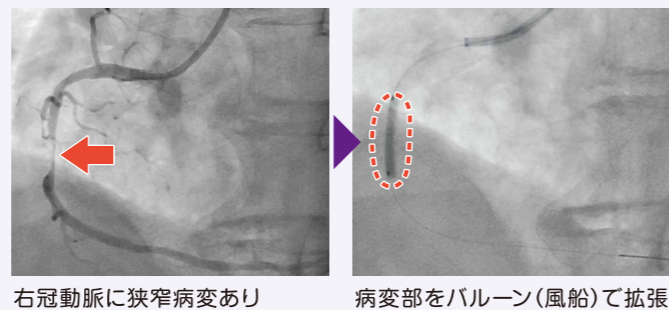
心臓カテーテル検査にて、冠動脈の狭窄(あるいは閉塞)を見つけたら、経皮的冠動脈形成術を

行います。これが世間一般的に、「風船治療」「金網を入れる」などのカテーテル治療になります。

カテーテル検査も治療も途中までの方法は、全く同じことです。

手首や、足の付け根の脈が触れるところ(これが動脈です)から、シースという入り口になる管を挿入します。そして心臓に向かって細いワイヤーとカテーテル(管)を進め、冠動脈造影を行います。狭窄あるいは閉塞の場所が判明したら、そこにさらに細いワイヤー(髪の毛ぐらい)を病変部の血管に通過させます。ワイヤーを通過させたら、この病変部を広げるためにしぼんだ風船を挿入し、拡張します。血管の中は多少広がりますが、中はグジャグジャのままなので、最後に別の風船に乗せているステント(金網のようなもの)を病変部に持ち込み拡張することで、血管内が大きく広がり、なめらかな流れを取り戻すのです。

一例を挙げます。



この患者様は、当初台所などの立ち仕事もできないくらい、胸の症状がおありだったのですが、この治療を行うことにより、現在では家の中だけでなく外出も楽にできるようになったそうです。症状は様々です。自分では年齢のせいにしてますが、気になることがありましたら、当院循環器内科に一度ご相談ください。

脳外科で内科の治療？

みなさんこんにちは。内科医の吉居真由美と申します。

藍の都脳神経外科病院は、その名の通り脳の病気を治療する病院です。名前からして”脳神経外科病院”ですので、内科の診療なんてやってないと思っている方も多いようです。脳の病気を治療する病院なのに、なぜ内科医がいるのでしょうか？



総合内科 吉居 真由美

実は脳の病気は、もともと脳だけの問題で病気になったわけではなく、内科の病気のなれの果てとして発症するものも多いのです。たとえば癌。体のどこかにできた癌がたまたまあまり症状を起こさず、脳に転移して麻痺やけいれんを起こした時に発見されることがあります。それから脳卒中。脳卒中には脳梗塞(脳の血管が詰まる)、脳出血(脳の血管が破れる)がありますが、これらは健康な人よりもコレステロールや中性脂肪が高い人、高血圧や糖尿病がある人の方が何倍も発症しやすいのです。脳外科の先生たちは、脳の治療にとって内科の病気をしっかりコントロールすることが重要であることをよく知っているのです。脳卒中は、いったん発症してしまうと後遺症に悩まされるだけでなく、常に再発も心配しなければなりません。再発を防ぐためにはコレステロールや中性脂肪、血圧、血糖などをすべて下げておかなければならないのです。つまり、内科の薬は内科の病気の治療薬でもありますし、脳の病気の予防薬でもあるのです。

もちろん今までに脳卒中になったことのない人も今後の脳卒中を防ぐために、内科の病気はきちんと治療しましょう。総合内科の外来には脳外科に通院している方はもちろん、脳外科にかかったことのない方も受診していただけます。それでは、総合内科の外来で来院をお待ちしています。

図1 糖尿病と糖尿病でない方の心血管疾患による死亡率

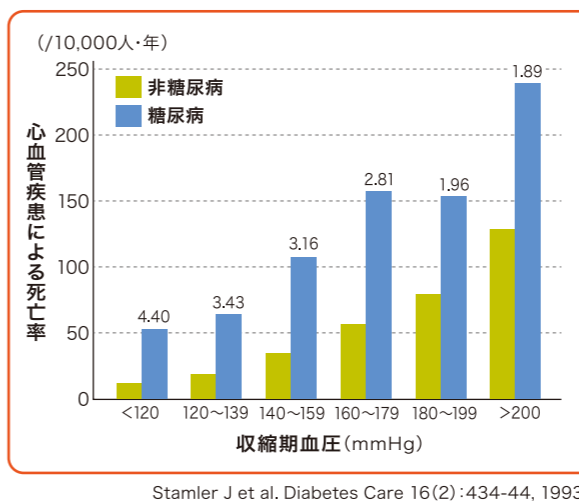


図2 血糖と血圧コントロールの各種リスクへの影響

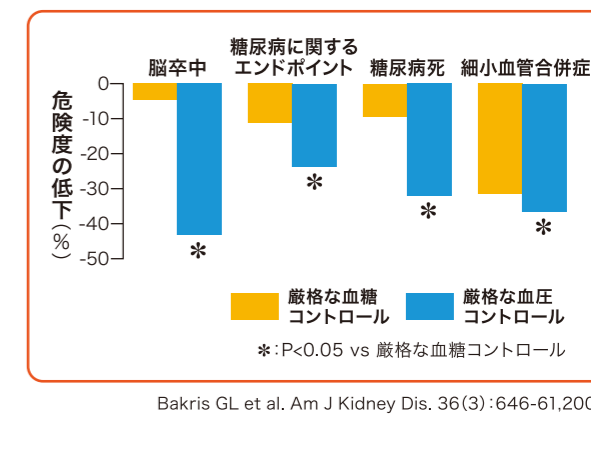


図1・2は、「ノボ ノルティスグ ファーマ株式会社」糖尿病サイトより引用

当院における ニューロリハビリテーションについて

リハビリテーション部 主任 唐渡 弘起

近年、脳卒中リハビリテーションの領域では「ニューロリハビリテーション」というワードがよく聞かれるようになりました。この新しいリハビリテーションの概念はどんなもので、当院ではどういった取り組みを実施しているのかを紹介します。

ニューロリハビリテーションとは脳科学や神経科学知見などを基に行うリハビリテーションのことです。これまで脳卒中後の機能回復は「障害された脳の神経回復はありえない」とされてきました。ですから、リハビリテーション訓練においては「運動麻痺を改善させるというより、残存機能を利用して日常生活を自立してもらう」ことを中心に実施してきました。

しかし、近年注目されているのが「脳の可塑性を促す」という考え方です。それは脳の損傷部位周囲を活性化させることで、新しい神経ネットワークを構築し運動麻痺などの回復を促すことができるというものです。この考え方が推奨され始めてから、当院では残存機能を利用して日常生活を自立してもらうことと並行して、回復を促すために様々な機器を訓練に併用しています。当院での機能回復訓練を増幅させる機器として、磁気刺激治療としてのrTMS(写真①)や電気刺激治療としての中周波(ES360)(写真②)、随意運動介助型電気刺激(IVES)(写真③)があります。

●それぞれの機器の期待される効果です。



① **rTMS(反復性経頭蓋磁気刺激)**
脳を外側から刺激することで、障害された脳を活性化させることができます。



② **中周波ES360(電気刺激)**
意識レベルが低い方や、運動ができない方でもその部位に刺激をすることで、筋収縮を促すことができます。



③ **随意運動介助型電気刺激(IVES)**
運動麻痺によりわずかし動かかない部位でも、電気刺激により筋収縮を補いながら訓練ができます。

【リハビリ治療の経過】



① 発症1週間(TMS前):
筋収縮はあるけれども動かない。



② 20分間のrTMSと40分の訓練後:
肘の高さまで上がるようになる。



③ 発症1ヶ月:
肩まで上げて掃除ができるようになる。



④ 発症2ヶ月:
お箸も使えるようになる。

※効果には個人差があります。

はじめまして、地域連携室です

地域連携室 社会福祉士 木口 尚平・西山 典子

地域連携室では現在2名の医療ソーシャルワーカー(MSW)が在籍しています。

私たち医療ソーシャルワーカーは、患者様が安心して入院生活を送ることができるよう、様々なサポートをさせていただいています。

特に脳卒中後の患者様は在宅生活に戻る上で、様々な不安・問題を抱える場合があります。退院後安心して生活を送ることができるよう、ご家族の方を含め看護師やリハビリ療法士、ケアマネジャー等様々な職種とカンファレンスを行い、問題解決、介護・福祉サービス等の利用支援を行っています。また在宅生活に戻ることが難しい方には安心して療養生活を送っていただけるよう転院相談も行っています。

その他入院中の様々な困りごとの相談も受け賜っておりますので、私達にお気軽にご相談ください。

当院デイサービスでのレクリエーションにも定期的に参加していますので、ぜひお声かけください。



笑顔とチームワークを大切に

看護部 副師長 坂口 昌美

当院の外来は脳神経外科を中心に、痙縮に対するボトックス外来、脊椎・脊髄センター、循環器内科診療での禁煙外来やペースメーカー外来、糖尿病専門外来、総合内科、パーキンソン病・認知症に特化した神経内科や頭痛外来、脳腫瘍に対するセカンドオピオイドも積極的に受け入れております。

ウォークイン^(※)で来られた患者様が急を要する状況であると判断した場合は、ERと連携をとりながら迅速に対応できるように努めています。また、回復期やデイサービスとの連携も図っております。

外来診療に携わっている看護師は、常勤・非常勤含め6名です。みんな、個性豊かで元気いっぱい働いています。子育て中の「ママさんナース」が多い中、お互いに理解し合い、仕事と家庭を両立できるようにチームワークを育み協力し合いながら頑張っています。

私たちは病院理念のもと、常に笑顔をもっとに患者様を温かくお迎えし、日々患者様が安心して医療を受けていただけるようお手伝いするとともに、地域の皆様のニーズにお応えできるよう努めていきたいと思っております。

(※)ウォークイン:歩いて病院を受診された患者様のこと。



患者様ファーストが私たちのすべてです。

開設5周年に合わせて2016年9月に創刊号を発刊させていただき、今回で第2号の発刊となります。ご縁で鶴見区放出の地で2011年7月、大阪東部地区の地域住民の皆様により24時間365日体制での脳血管内手術治療を基軸とした脳卒中超急性期治療を提供することを最大の目的としてハート(愛)のある正社員40名で始めたことが昨日のこのように思い起こされます。今では火入れメンバーと同様にハートのある250人を超える医療従事者が集う組織に成長し、皆様に愛を藍される病院を目指し患者様ファーストを合言葉に日々診療を通して精進しているところです。

昨年は1年間で約300例近い手術件数を施行させていただきましたし、この半年の間に、超急性期治療で幸い救命できた患者様のよりよい神経回復を目的として、最新の医療技術であるtMS(経頭蓋磁気刺激治療)、tDCS(経頭蓋直流電気刺激治療)、HAL(ロボットスーツ治療)を導入し、回復期リハビリテーションでの治療効果を最大限に向上させることに成功しています。今後も最新機器への機材投資、ならびに人材教育投資を積極的に推進していくことで、ハート(愛)あるスタッフのさらなるレベルアップを通じて患者様ファーストのさらなる向上をチーム一丸となって頑張りたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



理事長・院長 佐々木 庸

- 〈主たる資格等〉
 医学部系資格
 日本脳神経外科専門医(札幌 中村記念病院 研修)
 日本脳卒中学会専門医(札幌 中村記念病院 研修)
 日本脳血管内手術専門医(神戸医療センター中央市民病院 研修)
 西安交通大学医学部客員教授
- 経営学部系資格
 経営学修士(神戸大学大学院MBA)

〈診療のご案内〉

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00 (受付 8:45~11:30)	○	○	○	○	○	○	△
14:00~17:00 (受付 13:30~16:30)	○	○	○	○	○	○	△

- 診療日：月～土曜日(土は午前中診療)
- 休診日：日曜・祝日・年末年始(12/30~1/3)
- ◎救急外来は24時間診療です。*診療科により異なる場合があります。

〈面会のご案内〉 平日 14:00~20:00 / 土日祝 11:00~20:00
 ICU・SCU 14:00~15:00 と 19:00~20:00

医療法人 啓光会
藍の都脳神経外科病院
 AINOMIYAKO NEUROSURGERY HOSPITAL
 大阪市鶴見区放出東2丁目21番16号
 Tel.06-6965-1800 FAX.06-6965-1600
 URL: <http://www.ainomiyako.net>

